

4 ロードマップ

短期 令和2年(2020年)10月～	中期 令和3年(2021年)4月～	長期 ～2020年代後半
(1) モノの交流を増やす (港湾物流)		
◆国際コンテナ戦略港湾の取組み (集貨、創貨、競争力強化)		
◆主航路の増深・拡幅 (R8d完了)		
◆C12荷さばき地の拡張等 (R8d完了)		
◆橋梁及び道路(此花大橋、舞洲幹線道路、夢舞大橋、夢洲幹線道路)の拡幅 (R6d完了)		◆此花大橋の歩道整備 (R10d完了)
◆臨港鉄道 (南ルート) 整備 (R6d完了)		
◆コンテナ車整理場の整備 (R5d完了)		
◆COMPAS導入 (R5d導入)		
◆AI等を活用したターミナルの効率化・最適化 ◆コンテナラウンドユース		
◆夕凧2号岸壁整備		◆埠頭再編による内航RoRo等の機能強化
◆汐見沖地区、阪南2区のインフラ整備および地元市町等と連携した企業誘致		
◆奈良・三重方面等における共同集貨活動 ◆顧客情報の共有、共同集貨活動での需要把握 ◆大阪港、府営港湾の両港利用に対するインセンティブ策の検討		◆各港の強みを活かした戦略的な集貨・創貨策の実施
(2) ヒトの交流により賑わう (クルーズ・まちづくり)		
◆クルーズ客船母港化構想の実現に向けたハード整備 (岸壁R3d完了、新ターミナルR5d完了)		◆母港化の実現
◆夢洲における小型旅客船用棧橋等の整備 (R6d完了)		◆海上交通ネットワークの形成
◆沿岸市町のまちづくりと併せた、みなと・海岸のにぎわい創出		
(3) 安全で安心な大阪“みなと” (防災)		
・堤防等の耐震対策		
◆堤防等の耐震・液状化対策 (R5d完了)		
・埋立地における浸水対策		
◆埋立地における浸水対策 (R9d完了)		
・沿岸市町における高潮対策		
◆防潮堤等の嵩上げ		
◆高潮タイムラインの運用 (R2d開始)		
(4) クリーンでグリーンな大阪“みなと” (環境)		
・LNGバンカリング		
◆検討会の開催、関係機関との調整等を行い、LNGバンカリング環境の整備		◆LNG燃料船の寄港促進
・グリーンアワード・プログラム		
◆参加するグリーンアワード・プログラムを通じ、海洋環境保護に取組む船会社による利用推進を図る。		
・美しく親しみやすい大阪湾の再生		
◆親水空間や自然再生をめざした水辺空間の整備・保全		

4 ロードマップ

短期 令和2年(2020年)10月～	中期 令和3年(2021年)4月～	長期 ～2020年代後半
(5) 一元化によるコトの効率化 (システム)		
<ul style="list-style-type: none"> ・府市相互での申請の受付 	<ul style="list-style-type: none"> ◆対象となる継続更新申請手続きの府市相互での取り扱い 	<ul style="list-style-type: none"> ◆許認可の一元化 ◆埠頭再編の提案
<ul style="list-style-type: none"> ・施設状況の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ◆府市港湾全体の施設の空き状況等の情報共有、情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ◆優先度の高い港湾施設への重点投資 ◆土地造成計画を重点化・集中投資
<ul style="list-style-type: none"> ・物流対策に特化した体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ◆物流対策に特化した体制の整備 (検討中) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新体制における実践的・広域的な訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◆管内の被災状況に応じた災害復旧対策の重点化等

5 終わりに

かつて大阪港は、住吉津、難波津と呼ばれた古代から海陸運送の要衝として、中国、朝鮮など大陸との経済・文化交流の門戸として栄えてきました。また堺泉北港は、かつて日明貿易や南蛮貿易で栄えた堺港と昭和以降に整備された泉北港が前身となり、日本を代表する国際貿易港へ発展しました。

歴史的に日本の玄関口として栄えてきた大阪港と堺泉北港を含む大阪府営港湾が大阪港湾局として一つの組織となることは、非常に意味があることです。

大阪港湾局においては、大阪経済の活性化と豊かで安定した府民、市民生活を支える港の実現に向け、今後もアンケート等の様々な機会を捉え、利用者ニーズの把握に努め、そのニーズに対応すべく各種施策を取り組むことで、利用者満足度を高め、「利用者へ選択される港湾」をめざし、本ビジョンの具現化を進めていきます。

本ビジョンの実現に向けては、関係機関や地元市町との連携に加え、港湾を利用する様々な事業者、周辺住民等との協力・協働が不可欠であり、これらの関係者から意見をいただきながら、各事業別の役割分担を含めた実施方法及び実施時期など、議論を深めていく必要があります。

さらに、これまで府市別々に運営してきた組織が一つになることで実現する港湾物流、クルーズ、システム等の相乗効果を今後も検証していきます。

なお、本ビジョンにおけるヒトの交流による賑わいについては、大阪ベイエリアのまちづくりという観点から、大阪・関西のさらなる発展をめざして大阪ベイエリアの将来像や整備の方向性等を示す大阪広域ベイエリアまちづくりビジョンと相互に整合を図り、それぞれの役割分担を明確にしつつ、さらなる賑わいの創出に努めていきます。

また、最終目標である「大阪湾諸港の港湾管理の一元化」に向けては、大阪府市のみならず神戸市・兵庫県との合意形成が必要不可欠であることから、神戸市・兵庫県を含む4港湾管理者での合意形成に向け協議を継続していきます。